

令和7年度(2025年度) 学校評価に係る保護者アンケート集計結果

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

授業改善により主体的に学ぶ喜びを感じさせ、課題について考え、他と協議しながら行動する学習指導を推進する。
生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む発達支持的な生徒指導を実践する。
夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませるキャリア教育を推進する。

2 学校自己評価結果及び改善方策等

4:十分達成できた、3:まあまあ達成できた、2:あまり達成できていない、1:まったく達成できていない

大項目	中項目	番号	具体的評価項目	評価平均	意見等
教育活動方針	学習指導	1	地域と協働した探究的な学びを通して、課題について主体的に考え、他と協働しながら行動する力を育てている。	3.4	・ 地域の力を借りて学習できる場所は、大きなメリットだと感じた。
		2	観点別評価を効果的に実施し、学習指導の改善等に努めている。	3.4	
		3	各教科指導においてICT端末を効果的に活用している。	3.3	
	生徒指導	4	自律した学校生活の実現に向け、生徒会執行部各委員会に自主的な取組をさせている。	3.4	
		5	生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践できている。	3.2	
		6	生徒主体の活動を推進し、社会性と適切な自己主張ができる力を育てている。	3.3	
		7	学校生活のルール等の在り方を生徒自ら考えさせ、自律的な規範意識を身に付けさせている。	3.1	・ 教科書等の持ち帰り指導は検討願いたい。
	進路指導	8	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して、生徒に自己の生き方を模索させることができている。	3.3	・ 国立大学へ入学した生徒がいることをもとPRすべきである。
		9	地域や産業界等と連携した体験的な学習などを通して、進路実現に向けた取組を充実させている。	3.5	
		10	キャリア教育において、場面に応じて適切に自分の意見を主張する力を育てている。	3.4	
	健康・安全指導	11	感染症や熱中症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげている。	3.5	
		12	校内組織の連携を迅速に行うとともに、外部識者・関係機関を含めたケース会議やいじめ防止会議等を開催し課題の共有を図っている。	3.1	
		13	ICTを活用し、不登校生徒等に柔軟な学びの保障や教育相談体制を充実させることができている。	2.9	・ 不登校等の生徒が学びの保障や教育相談の充実により退学しないで済むのはありがたいと感じる。 ・ 不登校になった生徒の理由に耳を傾けてほしい。
学校運営方針	信頼される学校づくり	14	コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を計画的に運営するとともに、次年度に向けた改善方策を明確にすることができたか。	3.0	
		15	生徒による情報発信を充実させ、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができている。	3.1	・ 入学者を確保するため、中学校にはさらに力を入れて活動すべきである。
		16	道外生徒の受入による教育効果を校内・地域に波及させることができている。	3.5	・ たいへん波及していると感じている。
		17	生徒・職員相互の発言や多様性が尊重され、学校の心理的安全性が確保されている。	3.0	
	渉外・総務・事務運営	18	家庭、PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができたか。	3.3	
		19	積極的な広報活動に努め、より効果的な生徒募集を行うことができている。	3.0	・ 本校の良いところを地元の中学校にもっとアピールしてほしい。
		20	職員や生徒の要望に応える効果的な予算運用や設備投資等に務めることができたか。	3.0	